

# ノスリ

*Buteo buteo* (Linnaeus)

## タカ目タカ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

### 選定理由

かねてから繁殖の可能性が指摘されていたが、能登、加賀でそれぞれ繁殖が確認された。県内での繁殖個体は少なく、生息地も限定されるため。

### 形態

全長約55cm。翼開長約130cm。雌は雄よりも少し大きい。翼は長くて幅が広く、尾は短めで、全体にずんぐりしており、トビよりも少し小さいタカである。頭部は淡褐色で暗褐色の過眼線と顎線が目立つ。体の上面は暗褐色で、胸から腹はクリーム白色で腹から脇にかけて暗褐色の斑が帯状になっている。尾は淡褐色で不明瞭な数本の暗色帯がある。

### 国内分布

北海道、本州、佐渡、四国などで繁殖し、九州、対馬でも繁殖期に観察されている。冬期は全国で見られ、琉球列島でも記録がある。

### 県内分布

2000年に能登町で繁殖が初めて確認され、その後も能登半島では10巣以上の繁殖が、また最近に加賀でも確認されている。冬鳥として平地から山地帯の開けた場所にふつうに渡来する。特に河北潟などで個体数が多い。

### 生態

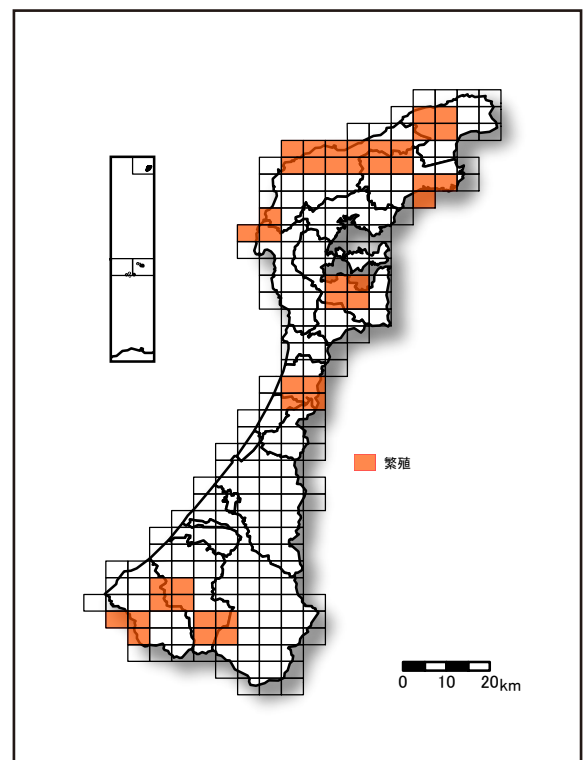
本州では、低山帯から亜高山帯の落葉広葉樹林や雑木林などで繁殖する。産卵期は多くの場合4月で、一腹卵数はふつう2~3個、抱卵日数は約30日、孵化後約40日で巣立ちする。日本では成鳥の留鳥性が強く、冬期も繁殖地周辺につがいで留まることが多いという。秋期には南に渡る個体も観察される。ネズミなどの小型哺乳類を主食にしている。

### 生息地の条件

本州での繁殖期における生息環境は、低山帯から亜高山帯の落葉広葉樹林、雑木林、アカマツ林、混交林などで、遠くないところに狩り場となる農耕地や草地のある林を好む。

### 生存の危機

越冬個体数が多いが、繁殖期の観察例は少ない。



県内の分布